『次なるパンデミックを回避せよ：環境破壊と新興感染症』

井田 徹治 岩波書店／岩波科学ライブラリー

本館	請求記号：K/519/I18	資料ID：111209151
Knowledge Base	請求記号： /519/I18 [Knowledge Base展示中]	資料ID：111308326

法学部准教授　時田 賢一

2019年末からの新型コロナウイルス感染症の流行は、またたく間に全世界に広がり人々の生活を一変させてしまいました。大学ももちろん例外ではなく、学生のキャンパスライフもオンライン授業の導入をはじめとして劇的に変化しました。

現在も世界は新型コロナ禍を脱しきれず喘いでいる最中ですが、本書は将来的に起こりうる新たなパンデミック回避のための対策の必要性を教えてくれます。生態系への影響を背景として、地球温暖化など複数の環境問題が新興感染症流行の発生確率を上げる可能性が説得力を持って説かれています。これらの環境問題の共通点はなんでしょうか。それは程度の差こそあれ我々人間自身が関与しており、また、今後の努力次第で状況を改善できるということです。そういう意味で取り上げられている諸問題には困難だけでなく希望も残されています。

本書を読めば、我々はたまたま運悪く厄介なウイルスが人間の社会にスピルオーバー（流出）した時代に生きているのではなく、半ば必然的に現在のパンデミックを経験している可能性が理解できるでしょう。新型コロナ禍で私たちはひとりひとりの行動が感染の流行を左右することを学びました。これと同じように、新たなパンデミックを防ぐためには諸々の環境問題を当事者意識を持って考えていくことが必要になります。それは現代を生きる我々、とりわけ皆さん大学生のような若い世代が身に付けるべき態度といえるでしょう。